



今こそ「ONE TEAM」となり、JR産業に集うすべての仲間の雇用と生活を守ろう

2 0 2 1 年 3 月 2 4 日

日本鉄道労働組合連合会

## J R 九州高速船(株) 第 1 回団体交渉

# 賃金引き上げをはじめとした労働条件改善の必要性を訴える

J R 九州労組は 3 月 22 日、J R 九州高速船(株)と 2 0 2 1 春季生活闘争の第 1 回団体交渉を行い、2 月 26 日に提出した「2 0 2 1 年度新賃金等の要求」に対する趣旨説明を行った。

交渉で J R 九州労組は、釜山航路の運航休止が 1 年以上続くなど、現下の深刻な経営環境に理解を示しつつも、この間 J R 連合と連携して雇用調整助成金の特例措置の延長に取り組んできたことや、全国の仲間が「QUEEN BEETLE」のグッズ購買等に協力してきたことなどを主張。その上で、会社施策に積極的に協力し、「QUEEN BEETLE」の運航開始に向けて真摯に業務を遂行してきた組合員の労苦に、賃金引き上げをはじめとした労働条件の改善を通じて酬いることの必要性や、要求については、生活を守るという観点を踏まえ「働きの価値に見合った水準」を求めていることなどを述べ、「賃金は最大の労働条件であり、人への投資なくして、会社の持続的な発展、業績回復はあり得ない。今後、真摯な協議を通じて、組合員とその家族の切実な想いに寄り添い、耳を傾けることを強く求める」と訴えた。

一方会社は、これまでの会社施策への協力や、J R 連合全体でのグッズ購買等の取り組みに謝辞を述べた上で、現在、賃金を含めた営業費用は全て借り入れにより賄っていることや、国際航路は依然として運航再開の見通しが立たないこと、沿岸輸送特許での「QUEEN BEETLE」の国内遊覧運航も、今後の緊急事態宣言の発令等により運航休止の可能性があることや、リース料・燃料費等の運航経費を考慮すれば 1 便あたりの黒字化は困難であること等を主張し、非常に厳しい経営環境が当面は続くとの見通しを示した。その上で、「今後貴側とは真摯に協議を行い、可能な限り要求には応えていきたいが、事業の存続を考えれば、今年度のベースアップ実施や諸制度の見直し、夏季手当の支給は非常に厳しいものにならざるを得ない」との厳しい見解を示した。

J R 九州労組は、J R 九州高速船(株)の経営環境に理解を示しつつも、ビートルブランドの価値向上に真摯に取り組んでいる組合員のこの間の労苦に報いるべく、今後団体交渉を強化し、粘り強く要求実現を訴えていくこととしている。